



佐川 八重子

桜ゴルフ  
代表取締役

## 作曲家服部良一先生 との出会い

『湖畔の宿』や『青い山脈』などのヒット曲で知られる作曲家、服部良一先生と初めてお会いしたのは、40年ほど前のバレンタインデーでした。おしゃれな大人が集まる元赤坂のレストラン「カナユニ」でのこと。バーカウンターで先生と隣り合わせ、「素敵なお召し物ですね」とお声を掛けていただきました。

その時のご縁で、先生から音楽会やお食事にお誘いいただくようになりました。ちょうど私は会社を始めて11年目。ゴルフ場事業に進出したものの挫折。気弱になっていた私を先生は優しく励ましてくださったのでした。

当時、服部先生は70代。音楽活動の集大成として交響詩に取り組まれていました。後に『マウント富士』として発表された曲です。「うまくいかない」「何かが違う」と言ってはよく「カナユニ」に呼び出されました。

新しいものを生み出すのは大変なことなのでしょう。おそばにいて、呻吟する芸術家の心の裡を垣間見ました。

この写真は、先生と一緒に銀座のあるレストランクラブに招かれた時の1枚。突然、紀伊国屋書店のオーナー、田辺茂一さんが「さくらさん、元気？」と割り込んでこられました。

写真ではとても楽しそうですが、あの時の私は人生で最も辛い時期でした。あの笑顔は何だったのかしら？ 今思い返すと、先生から『マウント富士』、ようやく仕上がりました。本当にありがとう」とお礼を言われた直後だったからかもしれません。

他にも忘れられないことがあります。「私は音楽バカで教養はないけれど、少しは有名になると、立派な方々に導かれて大変利口にしていただいた」という謙虚な姿勢。さらに「もう新しい曲は作らないが、世の中に出ていない、いい曲がある」と仰って『君の名はさくら』の直筆の楽譜を頂きました。

この写真、若々しい先生のお顔が少し欠けているのが寂しい。



左端が服部氏、右から2人目が筆者